

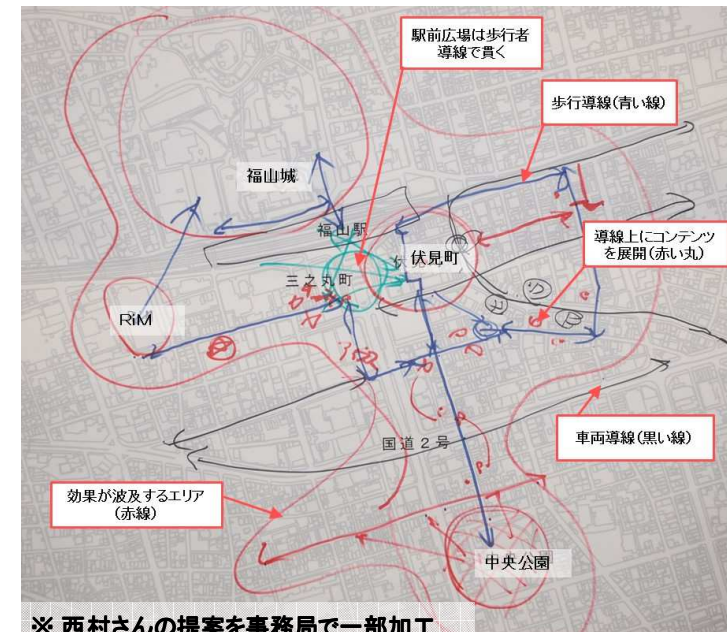
## 第2回福山駅前デザイン会議の概要

資料1

「福山駅周辺の公共空間の近未来について」をテーマに、歩いて楽しめる導線の具体的なイメージや、道路、駐車場などの公共空間の新たな活用方法、福山城や中央公園を拠点とした4つのエリアビジョンを今後議論していくことについて意見交換を行いました。

### 再生アドバイザー西村浩さんからの提案

- 都市の人口が縮小するなかでは、事業を小さくはじめることが重要。
- まずは、**エリア価値を高めることが必要**で、そのために、いくつかの拠点を盛り上げながら**導線をつなぐ**。その導線上に面白いコンテンツを展開していく。
- 盛り上げたい**主要導線を戦略として明確に打ち出す**ことで、その周辺に民間プレイヤーが集中し、投資が促されていく。
- 福山駅周辺では、**福山城、中央公園、エフピコRiM、伏見町**の4つの拠点を軸とした**回遊導線を設定**するのが理想的。
- このエリアに歩きやすい歩行環境を整備するとともに、コンテンツを配置することが歩く動機につながる。
- こうした導線を設定した場合、**中心には駅前広場がある**。エリアをつなぐ場所として、**歩行導線で貫く**ことができれば素晴らしい。来街者を迎える場所として雰囲気づくりも大切。
- このような導線を設定し、コンテンツを集積させることで、エリア価値も高まり、福山駅前が非常に魅力的なまちになる。



※ 西村さんの提案を事務局で一部加工

### 道路と駐車場の使い方を考える

- これまでは、車社会に対応するため、車のための道路整備が優先されてきた。社会が成熟した今は、**人の導線をどうしていくかが大事**になっている。
- 駅前のにぎわいは、治安維持が前提。その一歩先を行き、歩きやすく、多くの人が集まる魅力的なまちにしたい。
- 駅前を車で来にくい場所にするのではなく、**車でアクセスしやすい状況と安全に歩ける歩行者空間をセットでまちに組み込む**ことが非常に重要。
- 人を惹きつけるまちの大きな要素は、**止めやすい駐車場、停めたあと歩きやすい歩行者空間、強いコンテンツ**の3つ。
- そのために、安全な歩行者導線まで歩いて5から10分までのところに駐車場があるという状況を作り出すことが重要。
- 車で来た人に歩いてもらうためには、歩道(行政の敷地)と民間の敷地の境界を曖昧にすることが効果的。
- 駅前に点在している小規模の民間のコインパーキングは、効率が悪く、もったいない空間の使い方になっている。**小規模な駐車場集約する方法や行政の駐車場のマネジメントを考える**必要がある。共用駐車場を設け、低料金で利用できる仕組みなどを考えてみてはどうか。
- 福山駅周辺は、そういった仕組みがうまく生かせそうな道路や駐車場の配置になっている。駐車場マネジメントの全国モデルになり得るのではないか。
- 車で訪れる人の滞在時間は短い傾向にある。目的地以外に寄り道してもらうためにも、駐車料金を低額にできる仕組みを考える必要がある。
- 安全でなおかつ**止めやすい、そして停めたあとはずぐに歩いて楽しいまちが広がる**。これは、福山駅前の再生に欠かせない非常に大事なコンセプトになる。



## エリアビジョンを考える

- 城、エフピコRiM、伏見町、中央公園を中心とした4つのエリアが核。それぞれのエリアの具体的な将来イメージをエリアビジョンとして示す。
- 産業構造や消費行動の変化で、エリアが持っていた役割が失われている。エリアビジョンによって、それぞれのエリアに新しい役割を持たせる。どのようなコンテンツが集積するかで、新しいまちのイメージでき、民間投資が生まれ、エリアの価値が向上することにつながる。
- 実際にまちを歩き、エリアビジョンを考えるのがトレジャーハンティング。市民やプレイヤーとなる人と一緒に今までとは違うまちの姿を見つけていくプロセスは非常に大切。
- エリアビジョンでは、地図上で見る境界ではなく、生活者や来街者、プレイヤーの視点でまちを歩いたときに感じる区切りをエリアとして設定する。
- エリア設定や魅力的なコンテンツを考える際、ターゲットとなる年齢層によって求めているものが違う。それらを駅前で共存させるのか、だれもが楽しめるようなものにするのか整理が必要。



## 公園と図書館の活用を考える

- 公園などの公共空間の魅力的なものにすれば、価値が高まる。福山駅前の再生には、中央公園の活用が重要。
- 中央公園と図書館をつなげ、双方に良い効果が生まれるプロジェクトを立ち上げる。
- 公園や図書館は、法律上の定義はあるが、使い方には裁量がある。独自性が発揮できれば、人が多く訪れ、そこにはビジネスチャンスも生まれる。
- 公園の利活用から生じた収益を施設整備や運営に再投資することで、さらに質の高い公共空間になる。その際、公共空間にふさわしい収益業態のあり方も検討する必要がある。
- 多くの学生が図書館で自習している。図書ではなく、居場所を求めている側面もある。

## 公と民の連携

- 民間も少し動き始めている。小さな動きを見逃さず連携していくことが重要。
- 動きが早い民間と連携するためには、将来的な空間イメージを共有しておくことが大切。
- 道路空間を利用した社会実験などは、市民や事業者の理解を高めてくれるので効果的。
- 議論したことを実行する地域のキーパーソンが不可欠。ビジョン実現のためには、最後は人の力が大きい。



- 多くの人に駅前を訪れてもらい、魅力を再発見してもらうことが大切。まずは訪れるきっかけを作ることが重要。
- 福山ならではの概念を持つべき。再生のためには、一見、無理に思えるようなアイデアを「どうやったら実現できるか」まで昇華させていく議論が必要。
- 将来の駅前を考える上で、何十年の間そのまま残すもの、10年くらいで変えてしまうものなど、時間軸という観点を持って事業を進めていかなければならない。

## デザイン計画作成に向けたロードマップ

2018年度(平成30年度)

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

2019年度(平成31年度)

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

デザイン会議

第1回

第2回

実証  
実験

第3回

中間とりまとめ

第4回

第5回

第6回

※会議の進捗によって変更する場合があります。

デザイン計画の策定